

（午後1時00分 再開）

○議長（井上勝彦君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番12、16番 堀内君。

〔16番（堀内和久君）登壇〕

○16番（堀内和久君）堀内でございます。お昼一番ということで、議長のお許しをいただきましたので一般質問させていただきます。

私は一つしかないんですけども、至ってシンプルで単純な観点から、市議会議員にならせていただく前からずっと思っていたことをきょうはちょっとだけお聞きしたいなと思ひまして、通告に載せました。

PR・広告の件なんですけども、広告といいますと、いろんなチラシとかいろいろあると思うんですけども、いいこと、悪いこと別として、人の口コミほどやっぱり伝わることというのは早いというか、口コミが一番やっぱり最大のPRであると僕はいつも考えるんです。でも、行政のええこと、悪いことというのは、悪いことというのは広まっていくときというのは、たまに残念ながらあるんですけども、いい条例ができたり、いろんなこんなイベントをやっているということ、市職員が一生懸命やっているという、こういうことというのはなかなか伝わらないので、いろんな一般質問等、答弁を聞きますと、きょうもあったんですけども、広報、ホームページで伝えていきます、努力します。なかなかこれが伝わらないと思います。そういう生活の観点の中から素朴な質問をさせていただきます。

橋本市と書いてある公用車でございますが、1日に何台もすれ違ったり出会ったり、いろ

んなところで見ます。和歌山県の公用車は当然のごとく国体のステッカーをよく見かけるわけですが、過去の質問において、広報、ホームページ、PR、周知に努めるとご答弁をいただく場合があります。大変前向きでありがたいのですが、それだけでなく公用車を利用し、市民の目にとまるような、そして目立つような磁石、ステッカーなど、周知に取り組んでいただきたく、壇上からの質問です。

①和歌山国体における市内の競技PRを早くしていただけないか。

②最近の市の条例、市単独の補助金などPRしてみたいか。

③現在、国の史跡に向けての高野七口黒河道はいかがですか。

④橋本市のイベントや特産物についてはいかがですか。

⑤コミュニティバスなどでのPR。

少し通告がからずれたら申しわけないんですけども、市民病院とかもバスがあるんやなと後から思ったんですけど、これは通告外なので結構です。

明確なご答弁をお願いいたします。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君の公用車などでの広告PRに関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（森口清隆君）登壇〕

○企画部長（森口清隆君）橋本市公用車での広告・PRについての質問にお答えします。

本市では、橋本の認知度とイメージの向上を図り、地域の独自性を生かしたまちづくりを進める上で、このまちのさまざまな特性、

魅力、可能性を市内外に向けて積極的に発信していくことが重要であると考えています。

その情報発信の手段として、中心になっているのが広報誌とインターネット上で公開している市ホームページ及び市フェイスブックページです。

広報紙については年12回の発行となっていますが、年々ページ数が増えており、読みやすさとともに内容の充実を図っているところです。

次にホームページについては、平成25年4月からの全面リニューアルに向けて新システムの構築が最終段階に来ているところです。新しいシステムでは、市の行政情報に加えて紀の国わかやま国体の準備状況や開催競技などの情報を掲載した特設ページや、観光情報をピックアップした専用ページができる予定です。また、英語、中国語、韓国語への翻訳機能も持っており、外国人観光客などの誘致に大きな戦力になると考えています。

さらに市フェイスブックページとの連携が可能となり、ホームページに掲載した特定の情報を即座に市や個人のフェイスブックページから閲覧できる機能を備える予定です。

このように広報活動を充実し、市内外への情報発信力を強化する中で、議員おただしの市公用車にマグネットステッカーを張るなどの広報活動の取り組みについてですが、まず、紀の国わかやま国体における市の競技のPRについては、平成25年度に紀の国わかやま国体橋本市実行委員会において懸垂幕や看板、そして議員ご提案のマグネットステッカーなどを作製する予定で、市の開催競技を市民の皆さまに周知するとともに、全国から集まる選手、応援団を歓迎する機運を高めていきたいと考えています。

次に、市条例や市補助事業のPRについてですが、各所管において新規事業や重点施策

などを取り上げましてPRすることで、これらの事業の効果を増し、市民サービスの向上につながるのではないかと期待できます。

高野七口の一つである黒河道のPRについてですが、現在、平成26年に国の史跡指定を受けるための準備を進めているところです。仮に国の史跡指定を受けることができれば、最終目標である世界遺産の追加登録を目指していきたいと考えています。本市にも世界遺産が誕生するという、この上もない夢の実現に向けて、市を挙げて盛り上げるためにも取り組んでいきたいと考えています。

次に、市のイベントや特産物についてですが、紀ノ川まつりや紀ノ川カップまつりにかわり、来年度に開催が予定されている（仮称）橋本市民祭りをはじめ、まつせ・はしもと、花と緑のリサイクル花まつり、市民総合体育大会、橋本マラソン、公民館事業などの数々のイベントや柿、卵、紀州へら竿、パイル織物などの特産物について、その時季に合わせ、PRすることでイベントへの参加者や特産品の売り上げに効果が期待できるのではないかと考えます。

最後にコミュニティバスでのPRですが、現在、コミュニティバスは小型路線バス、（乗車定員32名）を2台、ワゴンタイプ（乗車定員12名）を2台（予備車1台を含む）運行をしています。マグネットシートによる広報については、選挙投票呼びかけを以前に行っており、車体にあしらっているさつきを一部隠すことにはなりますが、あまり大きなシートでなければ可能であると考えます。

以上のように、マグネットシートを使用し、市公用車を活用した広報活動については一定の効果が見られるのではないかと考えています。また、職員が業務を遂行している間に広報活動ができることから、効率的でもあります。

したがいまして、各所管において、本広報活動によって事業効果が上がるものを精査し、予算の範囲内で取り組んでいけるよう努めてまいりますので、よろしくご理解の程お願い申し上げます。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君、再質問ありますか。

16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）ありがとうございます。

基本的に前向きなご答弁をいただいているので、過去最高ではないかなと思います。大変再質問しにくいんですけども、せっかく50分ありますので、ゆっくり行きたいと思います。

①番に移る前なんですけども、情報発信の中心が広報、ホームページとのご答弁ですけども、それらをもっと、ホームページを開いて見ていただくための努力というのは何かプラスアルファというのは考えておられますか。もしお答えできたらで結構です。

○議長（井上勝彦君）企画部長。

○企画部長（森口清隆君）現在、先ほども壇上から申しあげましたように、全面的なリニューアルということで、この4月からご期待していただいて、本当に期待倒れにならないと思います。かなり担当のほうではいろいろと勉強いたしまして、大変見やすく、また先ほども申しあげましたように、内容も充実しております。その辺でかなり効果が出るのではないかなと。

先日の5番議員のご質問でもちょっとお話ししたんですけども、新婚世帯の補助金等については若い世帯がかなり住宅取得においては数多くいるのではないかと。そういうときにはフェイスブック等でかなり効果的に情報を発信できますので、有効に活用いただけるのではないかなと、このように思っております。4月からの置きかえということに

なりますので、4月になれば、皆さん一度ご覧いただきたいと、このように思います。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）ありがとうございます。

先ほどのご答弁でもう一つお聞きしたいんですけども、観光情報をピックアップした専用ページという言葉が出たと思うんですけども、こういうのは具体的に何かあるんですか。

○議長（井上勝彦君）企画部長。

○企画部長（森口清隆君）専用ページなんですけども、特設ページと専用ページということで分けておるわけなんですけども、専用ページにつきましては、今のところ要するにはいってるところが商工観光課から入り、また観光協会についてはそのままダイレクトにのぞいていけるんですけども、うちのPR等につきましては、一度商工観光課へ入っていただくといいような形になるんですけども、この中でも内容についてはかなりうちのほうでも汗をかかないかんところはありました。それで内容についてもかなりボリュームアップもしてございます。そういうページを専用ページで持ったということでございます。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）ありがとうございます。

あとフェイスブックとかもお言葉が出たのでもう聞く必要はないかなと。フェイスブックは皆さんご存じのとおり、すごく使い勝手がいいというか。

フェイスブックの職員の利用、行政視察に行ったときなんですけど、以前、1月の末ですかね。ちょっと話がそれたら申しわけないです。フェイスブックのことなんですけども、1月の末に経済建設委員会で視察に佐賀県の武雄市に行かせていただきました。そのときに武雄市というのはお若い市長で、よくテレビに出られている方なんですけども、図書館をツタヤに委託するとか、ホームページ自体

をもうフェイスブックにしてしまうとか、同僚議員も何人か行ってるんですけど、私の携帯からもフェイスブック、武雄市にアクセスしてみたんですけど、向こうからぼんぼん送ってくるんですね。そういうのも今後検討の一つというか要望の一つにさせていただきたいと思います。答弁は結構でございます。

それでは、①番に移らせていただきたいと思います。

この1番から4番、重ねていってもいいところなんですけども、国体でいいましたら理事ですかね。条例の補助金、ごみの週1化とか、ここら辺は市民部長、小学校医療費無償化とかは健康福祉部長など、火災報知機付けよというシールというたら消防長になるのかなとか、黒河道でいうたら教育委員会、イベント等でいうたら経済部長、コミュニティバスは総務、いろいろあると思うんですけど、その中で前向きなご答弁をいただけそうな人に二、三人おつき合いいただいたらと思います。

簡単な質問なんですけど、マグネットステッカーなどの制作予定というのは、具体的にいつからの予定を①番なので、国体のステッカー、企画部長にお尋ね申し上げます。いつからの予定ですか。マグネット1個、だいたいいくらぐらいの予算と認識しておられますか。お願いします。

○議長（井上勝彦君）企画部長。

○企画部長（森口清隆君）実は、このマグネットシートなんですけども、実際私どものほうで既に購入をいたしまして、実は昨日入ってまいりました。それで堀内議員からこのお話を聞きまして、これはもう職員が逆にこういう発想をしないのかなと思って大変反省はしておるんですけども、その中で、マグネットシートを2枚1組で今買いましたのが、1,500円でございます。そんなには大きくない

んですけども、十分効果の出る大きさでございます。そして朝からうちの担当のほうに国体用の何か一回書いてくれということで作りました。簡単につくれます。そのマグネット台は別にして、シールが上に張られておりまして、そのシールにパソコンで打ち込めるということで、カラープリンターであれば、かなりきれいに仕上がりました。今回試したのは国体用のを試したんですけども、あくまでも試しということです。

長い話になるんですけども、これにつきましての予算は、先ほど申しましたように、そんなに本当にかからない予算で、消耗品で購入できるかなと思いますので、時期等についても、できるだけとなるんですけども、これはかなり公用車ということで発信力のある啓発になりますので、その辺やっぱり取り決め等、ルールを一定決める必要もございまして、その辺、PRする課とPRのようしない課がひょっとしたらあるかわかりませんので、その辺もあわせてルールづくりをしていきたいなど、このように考えております。

以上です。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）ありがとうございます。

①番につきましては、国体の質問はほかの議員も毎回のようによっていただいているということは張っていただいて走っていただくということでもよろしく願いいたします。

②番なんですけども、これも申しわけございません。企画部長にお答えいただきたいんです。

まず、公平な市民サービスである、ごみの週1化というんですかね。小学校医療費無償など、もっと市民に知っていただきたいですし、先日の5番議員の質問の答弁でもありましたけども、住宅補助が34件、情報発信の源

というのが広報関係が40%、住宅が50%、きのうメモを忘れてしまって、5番議員に夜電話したんですけど、平成24年4月から平成25年2月ぐらいまでで市内で婚姻届提出というのがほしい200件以上あります。全員が家を建てるわけではありませんけども、その人は果たして知っていたのかなと。あと、結婚3年以内というルールやったと思うので、そういうのもやっぱり婚姻届を出すところのカウンターにそういうのがあるんだよとか、もう一歩勇気を出したら家を買えるのかなとか、結構ぎりぎりの方っていていると思うんです。若い間に頑張って家を建ててもうたら、ふるさとで永住できるというのがかなう。一歩ずつ近づけていってほしいと。行政のほうから、僕らも呼びかけやないかと。そういったことで、条例や補助金というのが知った者勝ちではなくて、弱者やお年寄り、これからの若い人に使っていただきたいというふうに私は思うんですけど、企画部長、いかがですか。

○議長（井上勝彦君）企画部長。

○企画部長（森口清隆君）ただ今のご質問でございますが、全くそのとおりだと思います。私どものほうでもできる限り精一杯情報発信しておるとい認識ではおるんですけども、やはりいろんな手段を講じて発信していかねばならんと。特に補助金等のことになると、それを知っておると知っておらないのでは市民の皆さま、上下かなり違いますので、その辺については今後とも十分に発信をしていきたい、努力をしていきたいと、このように思います。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）大変ありがとうございます。

そこまで考えていただいていたら大丈夫かなと思います。

③番、④番に移りたいと思います。一緒に

ご答弁いただきたいんですけど、黒河道は教育委員会かなと思ったんですけど、観光の角度から見てということと、一番前向きなご答弁をいただける経済部長にお答えいただきたい。

仮称市民まつりとかそういうのは、紀ノ川まつり、カップまつりが一緒になって次からやっていかなあかんことをもっと周知していかなあかん。我々議員も、ほかの議員も聞かれると思うんです。次からどこになるんとかいろいろ聞かれると思うんです。また夏になってきたら、もっとこういう話題が出てくると思うんです。先手先手で広報だけじゃなくてPRしていただきたいということで、特に日本一の柿ですかね。公用車の1台ぐらい柿色の車があってもええかいなと僕は個人的には思うんです。個人的な話なので、パイルであったりへら竿であったり、そういうのももっとステッカーでやっていっていただきたい。値段も安いですし。経済部長の観点からはいかがですか。

○議長（井上勝彦君）経済部長。

○経済部長（浦 彰伸君）そしたらまず1点目の黒河道についてでございますけれども、黒河道につきましては、既に担当の観光関係の部署では一昨年度に黒河道のマップをつくらせていただいたところでございます。そういったマップをつくるというのも、これも世界遺産のルートとは若干違うところがあるわけです。なぜかといいましたら、やはり一般市民の方に黒河道に来ていただくという目的あるいはまた黒河道、それ一体どこの道よというのを皆さんに周知していくというのが一つの目的でございます。ルート確定が目的ではございませんでした。

そういった意味合いで、ただ今議員からおただしのステッカーによる広報というんですか、そういったことについては全く方向性は

同じかなというふうに私は考えてございます。そういったことで、先ほど来からも費用的にもあまりかからないということでございます。また車の両側面に張って皆さんに知っていただくということが目的でございます。黒河道の場合につきましては、皆さんにステッカーを張って、車の側面に張って見ていただいて、そして見た者がそれを見てやっぱり黒河に来ていただくというところまでのステップを考えてもらえるようなマグネットステッカーを考えていければなど。ただ単に黒河道を世界遺産登録とかいう標語的な言葉だけではなしに、イベントをやっておる経済部の中で考えた場合にも、やはり黒河道に一人でも多くの皆さんに来ていただいて親しみを持っていただく。そして世界遺産登録に向けての機運を高めていくという意味合いでのご協力をさせていきたいというふうな考え方でおりますので、できる限り早い段階で取り組みをやっていきたいというふうに考えておるところでございます。

それとまたイベントについてでございます。今の紀ノ川まつり、あるいは紀ノ川カップまつりについては平成25年度では統合するというのも打ち出してございまして、その周知という意味合いでもマグネットステッカーの使用は大きな効果があるのかなというふうに考えておるところでございます。それも何らかの形で一工夫をしていかないことには、何とかまつりがいつ開催というだけでは、もうひとつ皆さんに見ていただく、市民に共感していただけるのかと。ただ単にポスターがわりにステッカーつくったんかなというふうにもとられたくないということもございますので、若干工夫も凝らしていく必要があるのかなというふうに思います。

あと、製品関係でございます。今も柿の話が出たわけでございますけれども、まず第一

にやっぱり柿が出てくるわけでございますけれども、橋本の産品は柿、卵、また紀州へら竿、これもきのうも述べさせていただきましたように、伝産法での指定が成る予定やというようなこともございます。また高野口町のパイル織物の関係もございまして、やはりそういったことを全体的に柿にこだわらずに、いろんな産品をどないPRしていくのかということを担当課のほうで精査し、緊急度の高いものからやはり取り組んでいくという形で考えてございます。誠に費用もかからずにPRできるええ手法かなというふうに同感でございますので、また議員からもいろんなアドバイスをいただけたらというふうに考えておるところでございます。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）大変ありがたいご答弁、ありがとうございます。

部長もおっしゃったように、前向きにやっていくというのは方向性は同じやと思うので、あとは担当の優先順位というんですか、これを先行こうか、あれを先行こうかではなくて、部長同士お話ししていただいて、うちはこれを出すからとか、前向きな、取り合いになるようなそういうふうな感じの会議をしていただけたらと思います。

一つ付け加えさせていただきますけれども、マグネットシールに対して、今よくテレビとか見てたら、何とかドット検索とか、最後にコマーシャルであるじゃないですか。ああいうのははてなマークを付けて問うてみるとか、それを検索をかけさせることによってどこへ行くんやろうとか、多分結構あると思うので、ちょっといたずら心というか、楽しみも、あれはURLというんですかね。ああいうやつにマグネットシールを付けていただたら、明るく楽しい心に残るような、少しでも市のホームページにつながっていくというふうな感

じに持って行っていただきたいと思います。

最後の⑤番なんですけども、これが一番のポイントだと私は思うんですが、総務部長にお答えをいただきたいと思います。

このバスこそが本市の走る広告塔であると。一定の場所を一定の時間にきっちり行くと。人を乗せるバスこそが広告であると思えます。先ほどの企画部長のご答弁で、さつきが一部隠れるというのを聞いたように思うんですけども、私個人的な話ばかりして申しわけないんですけど、さつきよりも市のPRのほうが大事だと思いませんか。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（森川嘉久君）さつきとPRとという比較でのご答弁というのは、なかなかできにくいんですけども、ご存じのようにさつきは本市の木になっておりまして、そういう面もあってきれいな形のデザインの新しいバスを導入してきたという経過がございまして、担当者としては、あのデザインにかなり思い入れがございまして、ほかのものを張りたくないなという、若干そういう気持ちはあるようございまして、市として広報戦略はもちろん大事でございまして、全体としてそういう形で進めていくということございまして、議員おっしゃるとおりコミュニティバスというのは一つの媒体として重要な媒体でございまして、使っていくという形で進めさせていただきたいと思えます。

さつきは本市の木と申し上げましたが、花でございましたので、申しわけございません。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）一部隠してというのわかるんですけども、やっぱりバスなので、大きいこうと思ったら、いたし方ない部分というのは出てくると思うんです。

もう一つなんですけど、今までの広告というのは、基本的には市のPRであって無料広

告扱いという観点で思っているんですけども、逆にバスに関しては、有料広告というのもしつけると思うんです、募集して。なぜこんなことを言うかという、僕は何の一般質問をするんでも割とそういう考え方をするんですけど、この間の中学校医療費の話をしたら怒られるかもわからないですけど、この分をぶち込むのにこっちの分を軽減してこっちへ持ってくる。そういうふうな考え方というのは大事だと思うんです。ほかの議員の皆さんもいろんなお金付けてよ、予算付けてよというのは、どこから持ってくるのよと絶対やっぱりどっかでつまずくところ、絶対お金となると思うんです。この有料広告で、もしこれ募集してバスの後ろなり何なり広告料というのが発生して、その分でいつものようにお金に色を付けておいて、これは広告代ですというふうにして持っていってさらにおしゃれで大きなものになるんちゃうかなと、そういうふうと思うんですけど、有料広告については総務部長、いかがですか。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（森川嘉久君）実は有料広告の件に関しましては、先行して庁内でも検討委員会等がございまして進めておるところでございまして、それで、車体の広告という話も出ておりまして、議員ご指摘のとおり、コミュニティバスについても一つの対象ではあるんですけども、先ほど申しあげました美観の点もあって現在、あまり進んでいないのが現状でございまして。

それからコミュニティバスに関しましては、車内には一応広告のできる形の設備をしてあるんですけども、乗車人員の件もございまして、広告主の方が応募していただけるというのは比較的外の広告ということになるのかなとは思っています。それについては現在もずっと検討中でございまして、広報のほうが先

になるか有料広告が先になるかわかりませんが、引き続いて検討してまいりたいというふうに考えます。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）ありがとうございます。

できたら強く要望というか、有料広告にもっと積極的に取り組んでいただきたいと思えます。

並行して通告外で申しわけないです。市民病院のバスというのが一定の橋本駅、市民病院区間走っておりますので、もしよかったですらコミュニティバスの次ぐらいで結構ですので、ご検討だけいただけたらと思います。答弁ただかなくても結構です。よろしく願いいたします。

最後になりましたけども、きょうは副市長の声をいっつも聞いてないので、全体的に何かええ案というか、もうちょっと女性の観点から見て、こんなふうにしたらはとかあったら何かあればよろしく願います。

○議長（井上勝彦君）副市長。

○副市長（清原雅代君）なかなか女性の観点と言われても、私もぱっとは出てこないんですけども、ただ今回、堀内議員からご提案いただいた内容というのは、本当にすごい当たり前のようで、だれでも提案できるような内容であるのに、言われるまで気がもうひとつつかなかったという部分が、すごくいいご提案をいただいたと思っておりますので、それぞれの所属で自分のところのPRをしたいものというのは必ず持っておりますので、いい形でそれを実現させていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君。

○16番（堀内和久君）すいません。いきなり振ってしまって申し訳ないです。大変ありがたいお言葉、ありがとうございます。

こういうふうな感じで市のPRというのはとことん若い職員とか女性の方とかいろんな方に、上司の方から問いかけて、どうや、これどう思うとか、そんなふうに20代、30代の職員のほうが見ておる観点というのは結構いいところを見ておると思うんです。そんなのも取り入れて部課長の意見と足して2で割って、うまいことやっていったらありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

以上で終わります。

○議長（井上勝彦君）16番 堀内君の一般質問は終わりました。